

地域と「ともにあゆみ、ともにかがやく」 清水特別支援学校のお茶プロジェクト

老舗のお茶屋さんと特別支援学校が、茶畑を借りて協働で和紅茶を製品化。10年以上継続され、地域で児童生徒を育てています。



静岡県立清水特別支援学校

所在地：静岡市清水区
ホームページアドレス
<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/Shimizu-sh/home.nsf/IndexFormView?OpenView>

肥料まき、収穫体験、製品化作業

学校

中村米作商店

所在地：静岡市清水区
ホームページアドレス
<https://www.cha-nakamura.jp/>

発案、全体統括

企業

豊好園

所在地：静岡市清水区
ホームページアドレス
<http://houkouen.org/>

茶畑の提供・管理、製茶

農家

学区内にある商店の発案でプロジェクトがスタート。中村米作商店が全体統括をおこない、豊好園が茶畑を提供、清水特別支援学校のPTAが肥料まきを行い、児童生徒とPTAがお茶摘み、高等部生徒が製品化を担っています。

地域の中で

10月、静岡市清水区両河内のお茶畑では、小学生から高校生子ども達とその保護者がお茶の香りに包まれながら楽しそうにお茶を摘んでいました。子ども達は県立清水特別支援学校（以下清水特支）の児童生徒です。お茶農家からお茶の摘み方を教わり、最初は恐る恐る摘んでいましたが、だんだん慣れてきて楽しそうに摘んでいます。目標の量が収穫できて、「やったー！」と歓声があがりました。

老舗商店さんの地域貢献への決意

静岡市清水区西久保にある創業130年のお茶屋「中村米作商店」の中村さんは、2011年の東日本大震災の被災を目の当たりにし、改めて地域コミュニティの大切さを実感しました。「長年地域に支えてもらってきた当店が、何か地域に恩返しできることはないか」と考えていたところ、前の年に開校した清水特支のことを思い出します。「清水特支と何かできないだろうか」と考えた中村さんは早速学校に連絡しました。

地域とともにあゆむ特別支援学校

清水特支は2010年に開校し、「ともにあゆみ、ともにかがやく」を教育目標に、児童生徒が地域の中で自分らしく生きることができるよう学校運営を行ってきました。そのために、児童生徒が地域に出て地域の人と一緒に行うことができる活動を模索していました。

協働プロジェクトがスタート

中村さんは何度も清水特支を訪れ、児童生徒のために何ができるか学校と議論を交わし検討しました。そして児童生徒がお茶の生産から製品化までを体験するプロジェクトがスタートします。このプロジェクトを通して児童生徒が静岡の特産品であるお茶に親しむと同時に、地域の人のきずなを深め、地域社会の一員として活躍することが期待できるようになります。

中村さんは良質なお茶の生産地である両河内のお茶農家「豊好園」の片平さんに声をかけます。中村さんの想いに賛同し、片平さんが茶畑を提供することになりました。

お茶がとりもつ地域とのきずな

3月と7月に清水特支のPTAが肥料を蒔き、10月には児童生徒有志とその保護者がお茶摘みと製茶工場の見学をします。摘んだお茶は、片平さんがすぐに和紅茶にしてくれます。手摘みの和紅茶は貴重で毎年質の良い和紅茶ができあがります。できた茶葉は、清水特支高等部の集中作業で製品化します。袋にシールを貼る・茶葉の重さを量り袋に入れる・シーラーで封をするという工程を分業で行います。

できた和紅茶は、清水特支の学習発表会や、地域の市民交流祭で販売する他、中村米作商店の店舗を借りて児童生徒が地域の人にふるまったり、来校者にふるまったりして、地域とのきずなを深めるために役立っています。

Point

清水特支は、児童生徒が、地域社会の一員として暮らしていくことができるように、生徒と地域のきずなを深めようとしています。地域の人々も、それを暖かく見守り、本プロジェクトを進めています。

これからの展望

このプロジェクトは12年目を迎えています。新型コロナウイルス感染予防のため、2020年、2021年は生徒がお茶摘み体験をできず、PTA役員だけで行いました。来年度こそ再開し、お茶畑に児童生徒の元気な笑顔が戻ってくるよう願っています。

